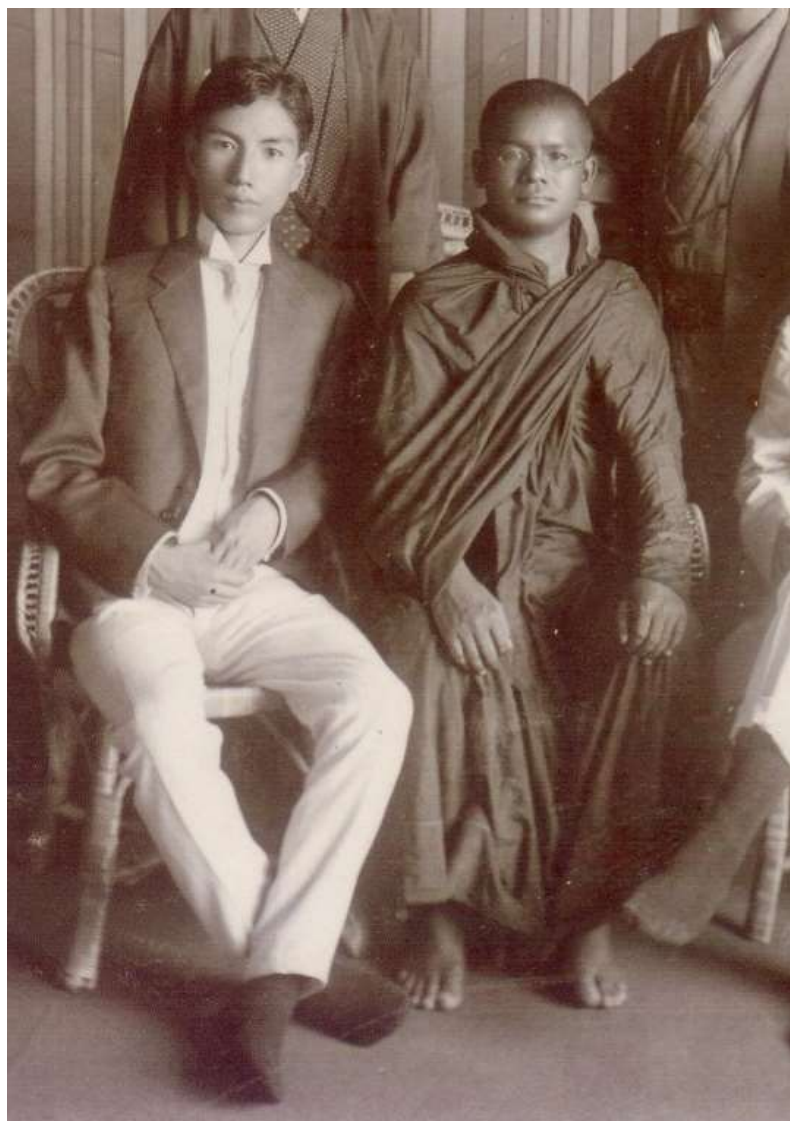


伊藤祐民とウ・オッタマ僧正の1910年の出会い

- 京都東本願寺の**大谷光瑞**の勧めもあり**1904年渡日**する。龍谷大学で英語、仏語、サンスクリット語を教え経済的に支えとなった。
- 1910年いとう呉服店開店日に**松坂屋初代社長伊藤次郎左衛門祐民(すけたみ)**と出会った。
- **伊藤守松**は1878年5月26日名古屋茶屋町で伊藤家14代祐昌の4男として出生、1924年47歳で15代次郎左衛門**祐民(すけたみ)**襲名。
- 伊藤家が代々仏教篤信の家風から、これも何かの因縁と貴賓室に招じて面会したところビルマの**オッタマという僧侶**で、語り合い互に知己のような親しさを感じ数日を伊藤家で過ごしてしまった。その後もオッタマ師は来日する毎に伊藤家を根城にして東奔西走した。

1910年 松坂屋店内 オッタマ 守松



1904年 東本願寺・龍谷大学関係者

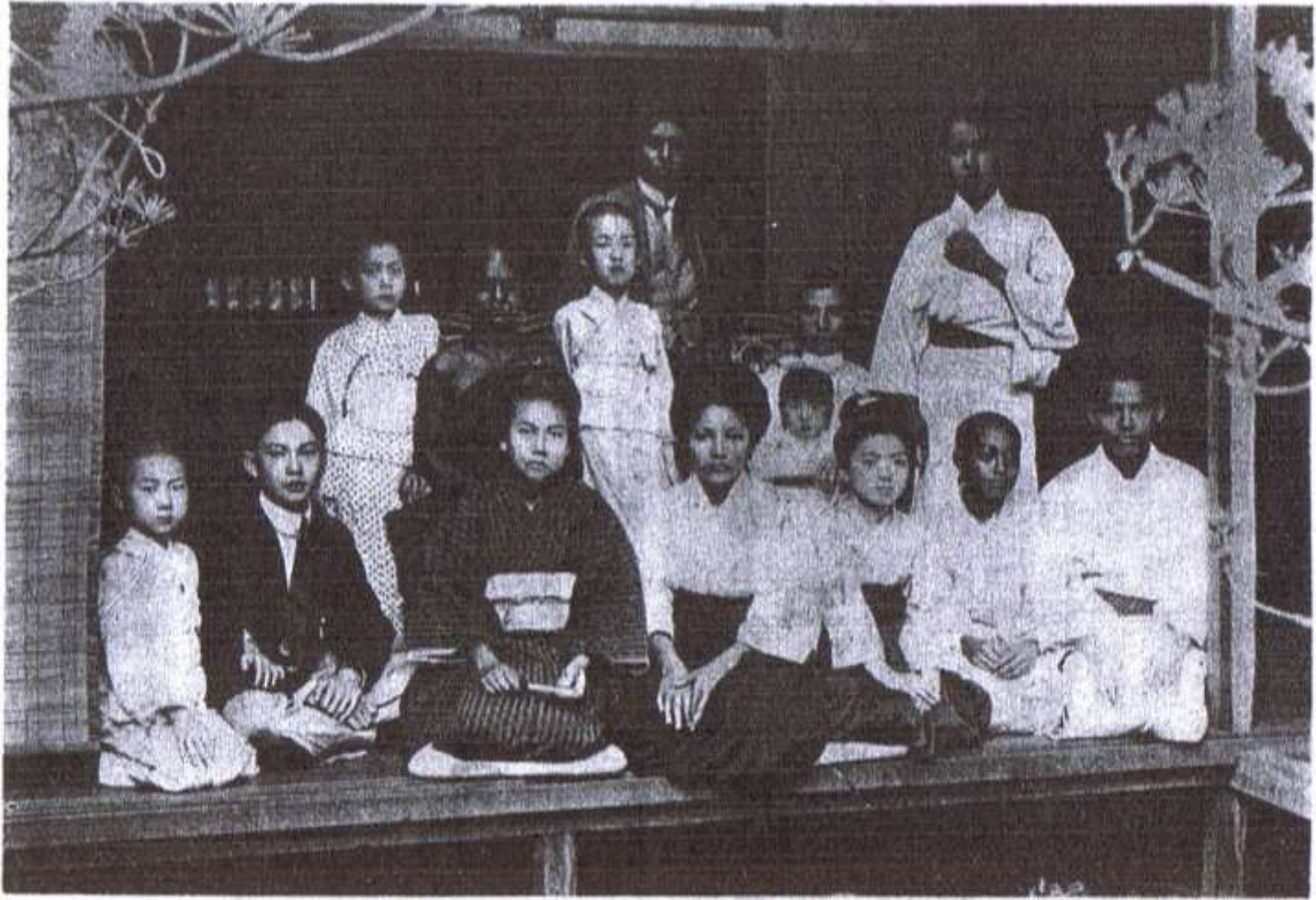


伊藤祐民はオッタマ僧正との約束を果たす

- オッタマより日本で高等教育を受けさせるため、**青少年の留学生受け入れを頼まれた。**
- 1913年5月26日 **6人のビルマ人青少年**が祐民を頼って神戸港に上陸し名古屋にやってきました。
- 伊藤家自宅では手狭で老松町にビルマ園を造営し、日本語、習慣の教育後、**マインゾ**は京都技芸学校で、刺繍、造花の勉強する。
- **ウ・ソーセン**は父がイナージョンで油田を持っているので、新潟で石油の採掘の勉強、その後アメリカに行き、数年後ビルマに帰国した。
- **セイエン**はイナージョンの地主であった。鉄道の研究をする。

ビルマの留学生と伊藤家の子供達 2013年6月

前列右より、チャントン、ラモン、
鎖(十一歳)、マインゾ、マソ、逸名、
鈴三郎(九歳)



後列右より、セーエン、守松(三十六歳)、
ソーセン松之助(十二歳)、オツタマ、銃次
郎(十歳)

伊藤家では手狭のため老松町にビルマ園を建て、6名の青少年を教育。
右からソーテン、セイエン、日本人、ラモン、チャントン、マソ、マインゾ



ウ・オッタマ僧正の履歴・反英闘争

2-1

- 1879年12月29日 アラカン州のアキャブ(シットウェイ)で生誕。
- 1895年 17歳 カルカッタの大学に行きインド哲学を学び、1900年イギリス、フランスにて政治法律経済を5年間研究した。
- 1904年 26歳 京都東本願寺の大谷光瑞の勧めもあり渡日し、龍谷大学で英語、仏語、サンスクリット語を教え経済的に支えとなった。
- 1910年 32歳 名古屋で伊藤祐民と運命の出会い交友関係になる。
- 1913年 35歳 オッタマの妹マインゾ、ソーセン、セーエン6名の留学生を伊藤祐民に預ける 2回目の渡日
- 1914年 36歳 日本から米国に渡り6か月再度日本に引き返し次いで南洋諸国を廻る。ビルマに帰国するもこの年第一次世界大戦が始まり、反英運動を恐れラングーン市内に6年間軟禁。
- 1921年 43歳 英官憲の忌諱に触れ1年間の禁固刑で入獄。

ウ・オットマ僧正の履歴・反英運動

2-2

- 1924年 46歳 反英運動の為再度ラングーン中央監獄に3年間入獄される。
- 1927年 49歳 出獄後民衆の賛をえて印緬分離円卓会議を唱え全国を廻る。
- 1928年 50歳 第3次渡日、次いで支那(中国)に行き清朝を倒した中國国民党の革命現状を見聞。
- 1929年 51歳 支那から日本に滞在、更に6月南京で行われた孫文の国葬に印度民衆の代表として参列、10月日本を離れ帰国。
- 1930年 52歳 タラワジ暴動の指導者と見なされインドに追放される。
- 1935年 57歳 印度ヒンズー マハー サバーの会長となる。
- 1938年 60歳 支那と日本を著す。(1937年日支事変に関する正確な資料、蒋介石の迷夢、ビルマルトの正しき認識)
- 1939年9月10日 シュエダゴンバコダの東僧房で病死 享年61歳

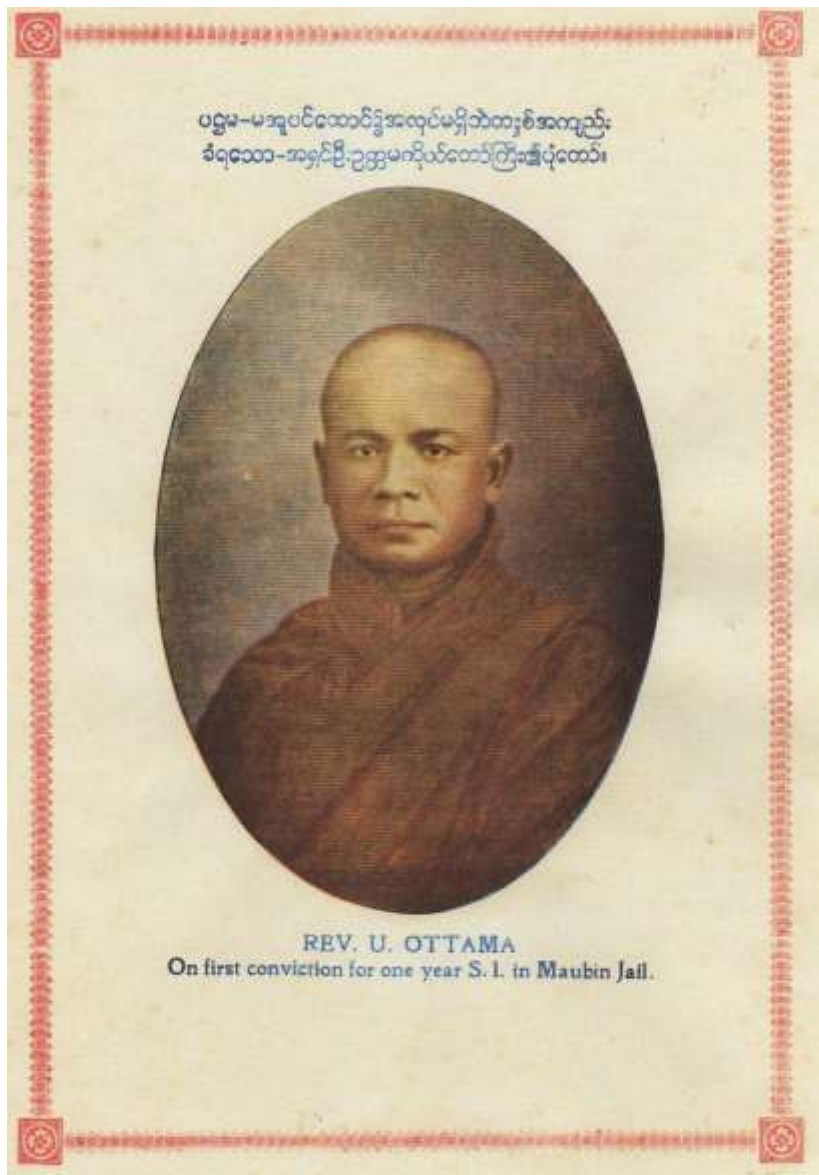
湧き上がる ド・バーマ！オッタマ僧正の独立運動と後継者 我らビルマ人連盟 **タキン党** (ビルマ人の主人はビルマ人である) **ウエサラ**に続け、ソーテンの知能を後ろに、タキン アウンサン等

- 1930年タラワジ州でイギリス製品ボイコット運動の先頭には30歳の若僧**ウエサラ**、オッタマの志をつぐ**ウ・ソーテン**の知能を後ろ盾に反英闘争。
- 政府の弾圧は激しくソーテンの青年連合会GCBAの会員たちの財産を没収。
- オッタマが日本より帰国し納税拒否、ボイコット運動を民衆の前に現れるとやがて「**ウエサラ**」から「オッタマ」への叫びがタラワジ州で鳴り響いた。
- ウエサラが逮捕されオッタマもやむなく一時難をインドに逃れた。**ウエサラは1940年40歳で死亡。**

第二次タラワジ反英闘争 僧侶セヤサン

- タラワジ地区の反英運動は10ヶ月で鎮定したかに見えたが、**タラワジ、ヘンザタ、ビヤポン、インセン、ミンブ、ミンジャン**の6地区に前より一層高い火の手を挙げた。
- ウエサラ、オッタマの後民衆を引き連れ陣頭に立ったのは僧侶**セヤサン**でした。
- 英印緬円卓会議の成立を聞いたオッタマはもってのほかと獄衣でペグーの民衆大会に参列した。
- ビルマはただ一つビルマのみ「**印緬分離円卓会議要求**」
- シャン州で1年間戦ったセヤサンがイギリス軍に捕らえられラングーン郊外エンセン刑場で処刑された。
- 1932年ビルマとイギリスだけの円卓会議がロンドンで開催、然し糖尿病で体調壊しカルカッタの病院に入院。弟子の**ウ・ソー**が出席。
- 1934年 日本で釈尊生誕2500年全世界仏教大会が開催。
- 印度仏教徒の**マハ・ボディ**会長**ウ・オッタマ比丘**に届けられた。
- しかしイギリス当局が拒否。朗報は伊藤祐民が日本からオッタマに5年振りに会いに来てくれた。

第1回入獄 43歳 1年間マービン監獄 第2回入獄 46歳 3年間 ラングーン中央監獄
服役後この監獄服で民衆の前に現れ更なる反英闘争



1928年6月1日中国革命の父 孫文の国葬に参加する

報公通大

中原興雜貨藥材行

增城大田時合所
新花田時合所
城大田時合所
城大田時合所

價發廉所合沙散新
甚行有有時田大花城
克零盡國水蜜肉黃蘇
已括有產貴 董占苗

112-1121 Canton Rd.
Telephone 112-1121

民國新聞

陳達明萬應博濟水

萬源昌總發行

開 福 食 存 存 存
計 雜 貨 始 始 始
平 貨 始 始 始

MAN YEN CHEUNG CO.
112-1121 Canton Rd.
Telephone 112-1121

要地明和大發行
播種耘草
一物二用

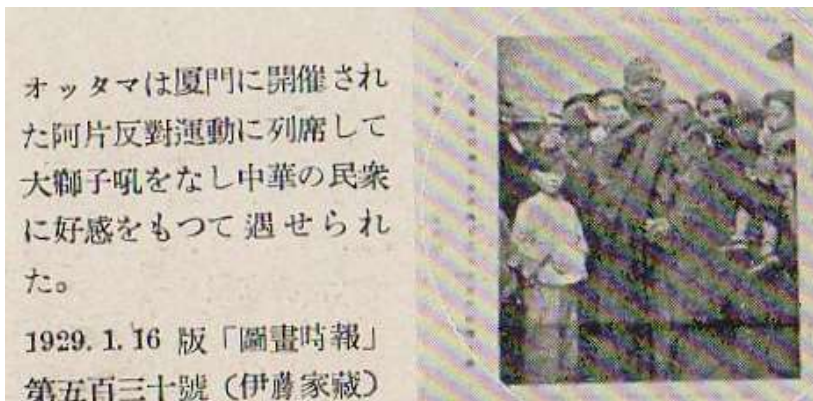
MINING WO HANGWAIHONG CO.
21, Noodle Street, Shek Wan, Kowloon, H. K.
電話：二一三三
行行街東門牌一三三號

十一日廈門通信 緬甸革命領袖 曾
被英政府兩次逮捕繫獄之宇屋直嗎氏
於年初自日本抵廈 本日在春生堂
對各新聞記者談話 敘緬甸革命情況
並謂因得益友陳曠生西遊海廈 故
來此 不日將赴滬晉京 囑中國革命
領袖 並觀光中國新政治 同時代表
緬甸印之兩民族 參加孫中山之葬禮
云 記者問緬甸人民革命思想如何
宇屋答謂現誠無辦法 因一般輸入多
無革命思想 智識階級 則多為政府
官吏 富貴者靡豐禮厚 更無給矣
現祇少數無產青年 尙存奮發耳 又
謂本人主張革命方策為宣傳 使民衆
各悟覺悟 聚力一致 則槍炮費用
殊不必用矣流血 以武力革命也云



中國国民党黨員興緬甸革命領袖宇屋脱嗎居○影記念 1929 (ビルマ革命ウ・オッタマ)

中国福建省厦門(アモイ)で開催の**阿片反対運動**に列席



珍しい有髪の写真・オックスフォード大学卒業記念 右は新宿中村屋のラースビハリボースと記念写真



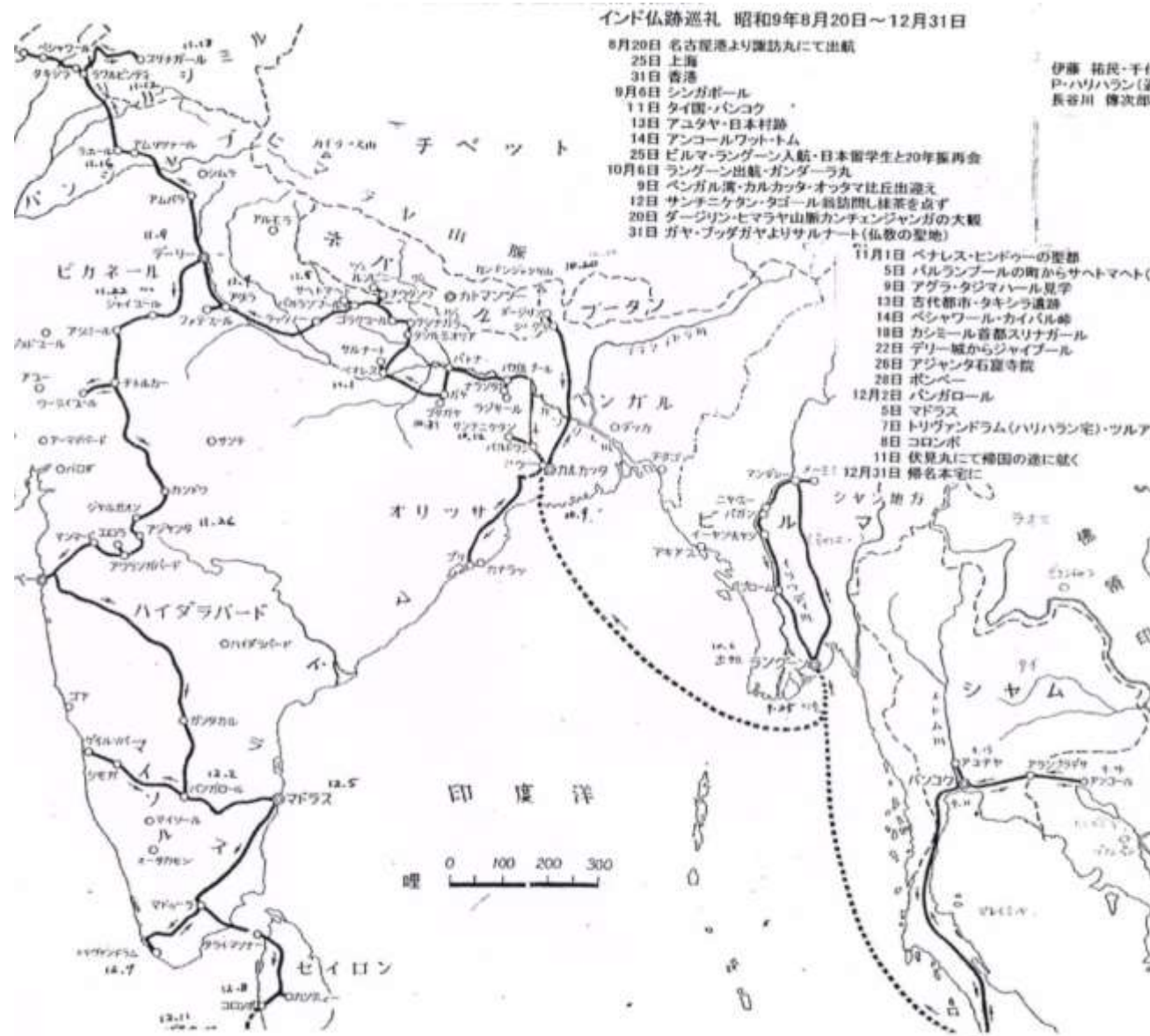
オックスフォード卒業の記念
撮影。
後年遠洲で頭負師然たるニッ
カー島打姿の寫眞をとつたが
彼の有髪の高眞は珍らしい。
伊藤家の桐行李から出たもの
である。 (伊藤家藏)



1934年8月20日～12月31日 東南アジア仏跡巡拝旅行 ビルマ人留学生との約束を果たすべく 20年振りの再会



写真家 長谷川傳次郎
通訳P・Hariharan
妻 千代 祐民 1934
SUWA MARU 船上



1934年9月25日 ヤンゴン ストランドホテルにて歓迎会
夜はマインゾ宅にて彼女手製のビルマ料理d。



左端オッタマの
弟 シン・アリア
妹 マインゾは
千代の右
和服姿は祐民



1934年10月2日午後6時 ニャウーより乗船イーナンジョン到着
 ソーテン、マソ、セイエン出迎え ソーセン宅に泊まる。
 夜は心尽くしのビルマ料理で歓待。



ハリハランが持つて行つたのは上の寫眞である。二十年の間に
 のやうに變つてゐたのだから未知のハリハランには困難な事案
 たらう。しかし次郎左衛門の心算には二十年の距りなどは問
 ではなかつた。

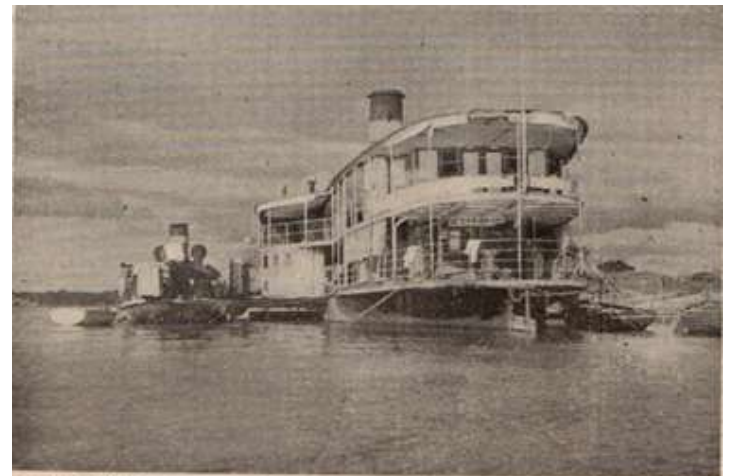
(1. ソウテン 2. マソウ 3. セイエン)

右端 セイエン妻, その他は子供達



(右が著者次郎)

イーナンジョンは、1934年10月2日、11時一団開港場。深夜
 7時、我はあまり深い方ではないが、東風の射撃
 に船士夫達の息が吹かされた。次郎左衛門は



次郎左衛門はラングーンからマンダレー、メーミョーを廻つて
 イラワジ河をイーナンジョンに下つたが、この日この船中で佛
 教青年會員の座談會に列席し、彼ははしなくも青年達の悲痛極
 まりない歓迎の辭を聞いたのである。

ソウセン マソの歓迎の辞 1934年10月2日

- 日本で伊藤様にお世話になりましたから20年、お久しぶりに今日ビルマでお会いすることは大きな喜びであります。
- 1922年米国から帰国しオッタマ僧正に加わってビルマの政治的自由の獲得に普段の努力を払うことになりました。
- 私は今日大小**8000のビルマ人の青年連合会会長**であることを喜んでご報告申し上げます。
- 1930年の独立運動が起こりその結果政府は我々を見るに疑いを以って多くの団体は不法的であると宣言されました。
- 政府の強い弾圧にも拘らず我々は最善の努力を払い**オッタマ僧正の弟アリアを擁立すべく結束**しています。
- そして諸青年団体は我国の青年の台頭向上に力を盡しています。

1939年4月22日ラングーンで撮影「ウソーテンとマソーと愛児」写真を伊藤祐民に送ってきました。「早い段階でこの問題に十分な注意を払ってください」と書かれています。さて意味は？この年9月オッタマ僧正がヤンゴンで亡くなった事と関係してるのでしょうか。




(蹟筆のソテ-ソウも字本日) 面裏真寫

ဦးစိုးထွန်း၊ ဦးစိုးထွန်း(ဝ)၊
 ဦးစိုးထွန်း၊ ဦးစိုးထွန်း၊
 RANGOON.
 Dated, 22nd April 1939
 U SOE THEIN, B.A., M. Sc., M.A., M. E.
 TWINZA
 YENANGYAUNG.
 Ref. B. I. S. L. ...

Jirozalmou-Ito, Esq.,
 Nagoya City,
 Japan.

Wishing that you will give this matter due attention
 at an early date,


 Your ever sincere friend and well
 Wisher,

1934年10月4日 カルカッタ埠頭に出迎えたオッタマ僧正と再会、
一か月間二人はインド各地の仏蹟を一緒に旅をしました。



オッタマ僧正の死後 マ・インゾとウ・ソーテンの消息

- マインゾは兄オッタマの死後も英官憲から身辺の自由を束縛されていた。
- 再び渡日して名古屋の伊藤家の庇護のもとで暮らしたいと祐民に伝えてきた。
- 祐民は渡来を進めたが**旅行不許可**となって実現せず。
- 昭和17年の日本軍の進駐後はラングーンで**オッタマ日本語学校**を開く。(現地人経営の最初の日本語学校)
- **ウソーテン**は日本軍進駐後は行方不明であったが1942年8月日本海軍の**イラワジ遡江部隊**と行を共にした。(東京日日新聞特派員によって消息が伝えられた)
- 日本軍のイエナンジャウン進駐に3000人の青少年を結集して協力した。

2013年6月22日 ヤンゴンのローズルームでSEDA (ミャンマー-日本経済開発協会) 主催によるウオッタマ僧正の功績を讃えたセレモニーが開催されました。その会場でこの写真を頂きました。

ウソーテンはオッタマの亡き後、GCBA8000名の会員を率い反英独立抗争のリーダーでした。

U THEIN SAN (Secretary of G.C.B.A U SOE THEIN
 +DAW THEIN TIN (Leader of konemaryi)
 Daughter, DAW KHIN TINT
 Granddaughter, DAW KAY THI OO
 (UNIVERSAL MK Co.Ltd)
 Ms. Ei Shwe Sin - Asst. Director of Sales



信望のソアツウも半木日 園 美 真 実

Handwritten notes in Burmese and English. The notes mention "U. 叔本" and "G.C.B.A". The English text includes: "My name is Daw Khin Tint, Daughter of U Thein San, who was a secretary of U Soe Thein (GCBA) ...".



左から Daw khin Tint, Daw Kay Thi Oo Tnanaka 2013.6.22 Rose Room Yangon

Handwritten notes and a postcard. The postcard is addressed to "U SOE THEIN, 1200, YANAGI, NAGASAKI, JAPAN." and includes a message: "Making that you will give this matter due attention at an early date, Your ever sincere friend and well wisher, M. Soethen".

2007年12月 ビルマの高僧パンニャバンサ長老来日し熱田・想念寺で講演後、日泰寺の鳳凰台のオッタマ僧正の掛け軸と対面。 それまで日泰寺では誰が描かれていたのか解からなかった。

250-0712 by ohsumi ryomu

法心寺 〒497-0033 熱田町熱田江本町川西 61 tel.0567-95-2642

■ 覚王山日泰寺にビルマ僧が訪問。 2007年12月22日記



▲ブツのお骨が安置された仏舍利塔の前のパンニャバンサ長老(日泰寺吉利殿)



▲「ウー・オッタマ僧正の肖像画」(覚王山日泰寺蔵)

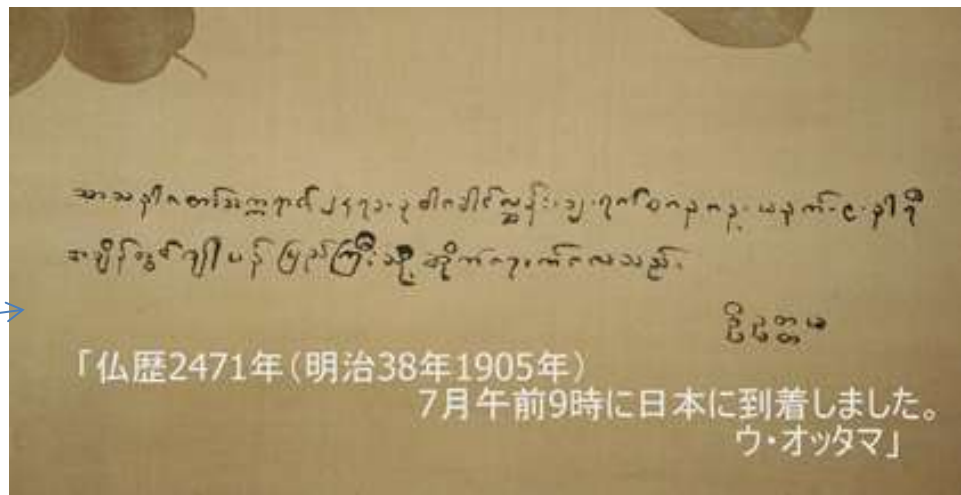
●先月号でお知らせしましたビルマで9月に
まった僧侶主導の軍事政権への平和的な
デモと抗議行動に対しての弾圧は、全世界
にインターネットとマスコミによって大きく取り
上げられました。これを契機としてビルマ国
外在住ビルマ人僧侶たちがビルマ国内の僧
侶と民衆の行動に賛同と支援を表明してい
ます。

●この先駆けとして12月7日に、アジア諸国
に多くのビルマ寺院を建立した高僧でシンガ
ポール在住の80歳・パンニャバンサ長老とア
メリカのカルフォルニア在住の57歳・ビルマ
仏教学教授スジャナバンサ師のお二人が来

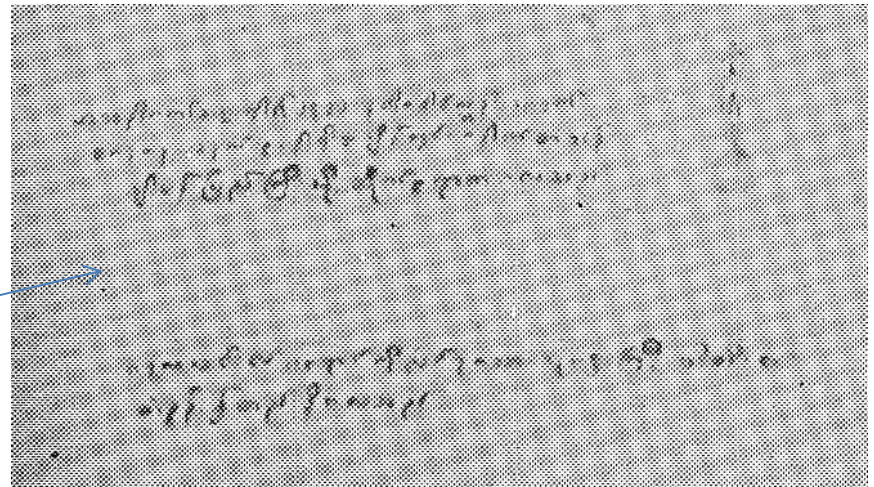
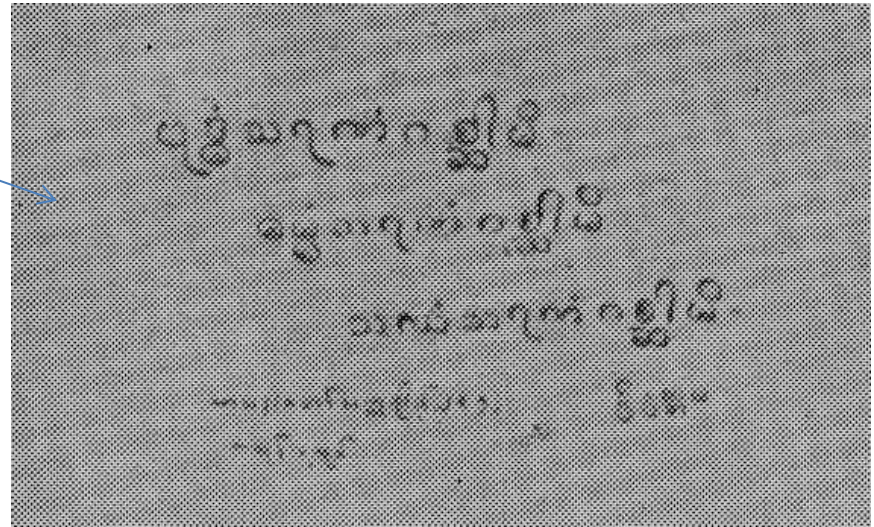
日されました。パンニャバンサ長老は9月の
国内の僧侶デモに対する軍事政権の武器
による弾圧をいち早く批判されました。軍政
は長老のビルマ国内のお坊さんへの影響を
恐れて長老に圧力をかけてきました。その
長老から直接話をお聞きし、日本の仏教者
のビルマとの関わり方を考えてみよう、名古屋・京都・大阪・東京での講演会が催されました。

●9日・名古屋熱田・想念寺での講演のパン
ニャバンサ長老の話です。「仏教徒には比丘
(尼)たちと、仏教を信奉する人たちの二つ
のグループで成り立ちます。比丘は修行に

祐民は揚輝荘西隣の日泰寺に久保田金遷
(松坂屋宣伝部所属)作のオッタマ僧正の掛け軸を奉納



久保田金遷画伯筆 オッタマ僧正肖像に自筆の賛



2009年11月4日留学生の子孫を探しにイエナンジャン訪問
タンタンアウン女史が100年前日本への留学生セーエン、ソーセン
の説明をしてセーエンさんの孫ティウインニョさんに会う。
2013年の100年記念セレモニーに来日を約束しました。



ソーテンさんの写真を大事に保管し持っていました。
ソーテンさんの消息は解らず今後調査が期待されます。
ティウインニョさんはこの翌年52歳病気で亡くなりました。



1934年 祐民が泊まったセーエン宅に今も孫のテイウインニョさんが一人で住んでいました。彼は独身で妹が一人アメリカ在住です。

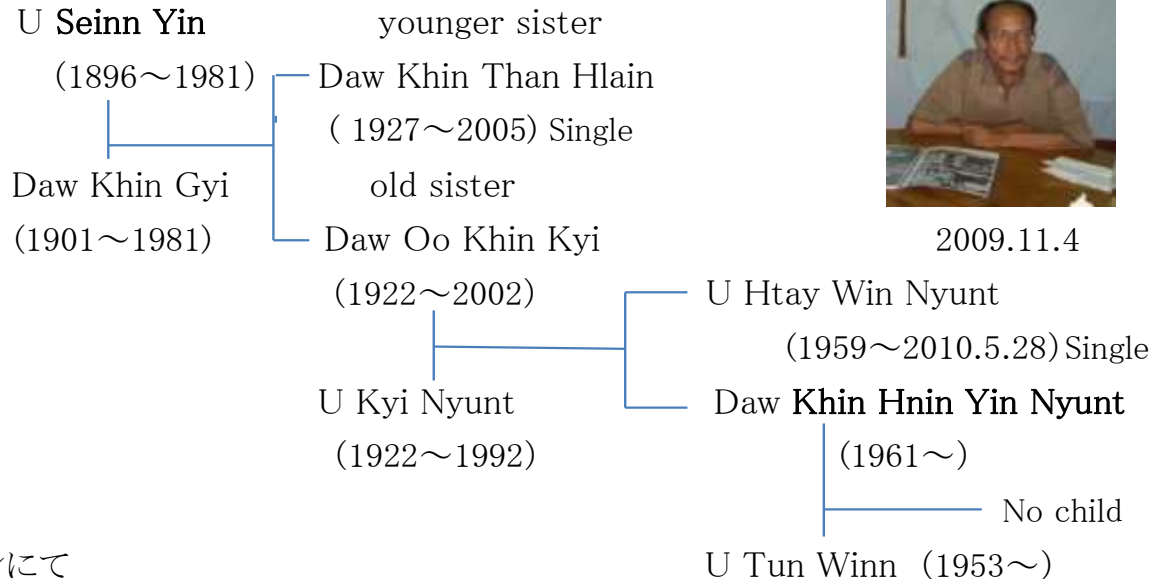


ウ・セイエン家系図

U Seinn Yin family Tree



1934.10.3 イエナンジャンにて



2009.11.4

2013年11月9日
セイエンさんの孫娘キンニンインニョ
さん来日し留学生100年記念セレモ
ニー揚輝荘で開催に参加



2010.12 ヤンゴンにて

伊藤祐民とオッタマ僧正と留学生100年の交流セレモニー開催 2013年6月22日 ヤンゴンローズルーム

Ceremony for the 100 Year Japan (Nagoya) – Myanmar Friendship Relationship

led by Sayardaw U Ottama

6. Honorable speech by U Htay Aung, Founder and patron, Myanmar-Japan SEDA
7. Explanation of Sayardaw U Ottama's Japan-Myanmar friendship activities by Mr. Tanaka, Yokiso Center (Nagoya), Japan



伊藤祐民ビルマ留学生受け入れ100年記念セレモニー開催 2013年11月9日 揚輝荘聴松閣ルーム

2013年(平成25年)11月7日(木曜日) 第3種郵便物認可

中日新聞 2013年(平成25年)11月12日(火曜日) 市報 20

ビルマ留学生受け入れ100年記念

百貨店「松坂屋」の初代社長、伊藤次郎左衛門祐民(一八七〇—一九四〇年)が、ビルマ(ミャンマー)から留学生を受け入れて百年を迎えたことを記念した交流会が9日、千種区法王町の揚輝荘・聴松閣であり、祐民と留学生の子孫同士が対面を果たした。(北村剛史)

千種の揚輝荘

祐民は一九三〇年(大正)にあたる十八代当主正二年にビルマから、也さん(音)東京都目の留学生六人を受け入れ、黒区一と、その弟卓雄(音)が、名古屋で日本語を学ばせ、千種区に教育を受けさせた六人、出席した。は最長六年間、日本に滞在したとされる。伊藤家の二人と記念交流会には六人の一ニンジンニョさん、人、セイエンさんの孫「小さじこ」嬢、前娘キンニンジンニョさんに、祖父から留学先の人達へ、ヤンゴンか、名古屋の話や聞いていらんことにも参加。伊藤、ここで伊藤家の人藤家からは祐民のひ孫たちと会えるのは夢の

子孫が感激の対面

「夢のよう」「交流深めたい」

「日本語を勉強したい」と語った。交流会は、祐民の足跡を調査研究しているNPO法人揚輝荘の会。一方、哲也さんは「曾祖父がどんなことをしたのか、はっきり加した。」

とは知らなかった。このような機会を与えてもらいたい。卓雄さんは「今回をきっかけに、交流を深めたい」と語った。

交流会は、祐民の足跡を調査研究しているNPO法人揚輝荘の会。一方、哲也さんは「曾祖父がどんなことをしたのか、はっきり加した。」



キニンジンニョさんと記念品を交換する伊藤哲也さん＝千種区で

ビルマの絆再び



9日、千種・揚輝荘 両国の子孫ら交流会

英国の植民地支配下で、十分な教育を受けた。ビルマの若者、伊藤次郎左衛門祐民の孫、伊藤哲也さん(音)は、祖父の足跡を調査研究しているNPO法人揚輝荘の会。一方、哲也さんは「曾祖父がどんなことをしたのか、はっきり加した。」

交流会は、祐民の足跡を調査研究しているNPO法人揚輝荘の会。一方、哲也さんは「曾祖父がどんなことをしたのか、はっきり加した。」

「松坂屋」初代社長・伊藤祐民 留学生受け入れから100年

大正から昭和にかけて、アジア各国の留学生を擁した百貨店「松坂屋」の初代社長伊藤次郎左衛門祐民(一八七〇—一九四〇年)が、ビルマ(ミャンマー)から最初の留学生を日本に受け入れた百年を迎える。その功績をたたえ、祐民と留学生の子孫らによる交流会が9日、名古屋市中千種区法王町の揚輝荘・聴松閣で開かれた。関係者は「祐民が築き上げた国際交流の輪を再び広げたい」と意気込みを込めた。(北村剛史)

交流会は、祐民の孫、伊藤次郎左衛門祐民(音)と、伊藤家の二と記念交流会には六人の一ニンジンニョさん、人、セイエンさんの孫「小さじこ」嬢、前娘キンニンジンニョさんに、祖父から留学先の人達へ、ヤンゴンか、名古屋の話や聞いていらんことにも参加。伊藤、ここで伊藤家の人藤家からは祐民のひ孫たちと会えるのは夢の

「松坂屋」初代社長・伊藤祐民 留学生受け入れから100年

伊藤祐民家系図

Suketami Ito Family Tree

伊藤 祐民(15代)

(1878~1940)

貞
伊藤 祐慈(16代)

(1927~2005)

(1901~1981)

静子

伊藤 祐洋(17代)

(1932~)

(1922~2002)

きよる

(1935~)

下条 実奈子

伊藤 哲也(1965~) 長男

伊藤 卓雄(1970~) 次男

美乙子

万佑子

千祥

参 考 文 献

<2022年4月5日 作成 田中進>

- **伊藤祐民伝** 松坂屋伊藤祐民伝刊行会 昭和27年発行
- **佛蹟** 印度 緬甸 泰国 佛印
長谷川傳次郎著 昭和16年発行
- **ビルマ独立の父 オッタマ僧正**
穎田島一二郎著 昭和18年発行
- **戯曲 ビルマの太陽** オッタマ僧正と伊藤次郎左衛門
田中公平著 昭和18年発行

